



福中 満

子育て世代定住支援対策について

問 能勢町では今後も人口減少が続くと予想されるが、町行政としてどのような対策に取り組むか。

答 人口減少克服のための対策は、もはや待ったなしの状態にある。平成27年度は、能勢町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に取り組むが、その中でも盛り込んでいきたい。各関係者の皆様のご意見を広くお聴きしながら実行力のある戦略づくりを進めたい。

若年層でも能勢への転入を希望する人も少なくない。子育て世代支援住宅・空き家の有効活用・3世代同居近居支援等様々な観点から、町の財政状況を踏まえつつ有効かつ持続可能な対策を検討していきたい。この対策では特に住民の皆様の御理解を得なければ課題の克服

- 一、子育て世代定住支援対策について
- 二、鳥獣害対策について
- 三、新たな英語教育について

は難しいと考える。

鳥獣害対策について

問 鳥獣害を抑制していくためには順序立てた総合対策が重要と言われている。能勢町の27年度の重点対策は何か。

答 27年については農地管理、特に地域ぐるみで実施する収穫した後の残野菜・家庭の野菜ゴミの適正処理の重要性について、広報紙等で周知していきたい。また里山景観形成事業とあわせて、新たに農地と隣接する林縁部（バッファゾーン）の刈り払い整備を支援することにより、人と野生動物のすみ分けを図る。国の捕獲活動支援金の活用については、捕獲活動従事者の確保を含めて、猟友会能勢支部等の関係機関と協議を行い必要な対策を講じていきたい。

新たな英語教育について

能勢町の小中学校では

問 能勢町の小中学校では昨年9月より大阪府教育委員会の委託を受け、フォニックスを活用した新たな英語教育が進められている。これは今までとどう違うのか。その特徴は何か。

答 従来の小学校英語授業では、外国語になれ親しみ、コミュニケーションの楽しさを味わうことを目的としている。そこでは「聞く」「話す」に重点が置かれている。これに対してフォニックスでは、発音と文字のルールや関係を学ぶもので、文字と音を反復練習の中で目と耳から覚え、単語を見ただけで「読む」ことができることをねらった指導法である。また中学校では英語の絵本や書籍の多読多聴の取り組みがある。

一般質問



中西 頭治

人口減少克服の視点

まち・ひと・しごと創生本部決定では、重要点として以下の3点が上げられている。若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、東京一極集中の歯どめ、地域の特性に即した地域課題の解決。

この各項目の具体化について問う。

人口減少への対策は

問 需要があるが、報酬が十分でない仕事にはなにかし給付してでも支える必要があるのではないかと。

答 限定的な個人的な形での支援というのなかなか難しい。

問 国土交通省が示している基本戦略に「空き家の活用、住みかえの促進」があるが、どう具現化するか。

答 空き家バンク制度の設計について検討を進めている。連携を模索している団体に課題があり、町を網羅する仕組みの構築には至っていない。円滑な定住促進となるような町の実情に合った仕組みづくりを検討したい。



問 若い世代、子育て世代への支援として、保育料の減免、今以上に真摯に検討するべきだと改めて提案する。

答 多子減免、1号認定の子供への実費負担補助、保育料増額分の減額経過措置を行う。

問 未婚母子家庭には寡婦控除が適用されないが、本町において「みなし適用」制度は検討できないか。

答 実態把握から入りたい。